【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【公開番号】特開2003-105272(P2003-105272A)
【公開日】平成15年4月9日(2003.4.9)
【出願番号】特願2002-206738(P2002-206738)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０９Ｊ　4/00
　Ａ６１Ｋ　6/00
　Ｃ０９Ｊ　11/00
【ＦＩ】
　Ｃ０９Ｊ　4/00
　Ａ６１Ｋ　6/00　　　B
　Ｃ０９Ｊ　11/00

【手続補正書】
【提出日】平成16年9月2日(2004.9.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
一方、このようなメッキ処理の煩雑さを解消するため、貴金属に対して優れた接着性を有するイオウ基含有重合性単量体も多数開発されている。例えば、特開昭６３－２４６３６０号公報、特開昭６３－２２５６７４号公報にω－メルカプトアルキル系モノマーやメタクリレート系ポリスルフィド化合物、特開平１－９０２７６号公報、特開平１－１３８２８２号公報、特開平１－２６８６１２号公報、特開平４－３３００８２号公報にチオリン酸系モノマー、特開平２－７７４７８号公報にチオカルボン酸系モノマー、特開平７－２５８２４８号公報に環式ジスルフィド系モノマー、特開平５－１１７５９５号公報、特開平７－２７８４９９号公報にチオリン酸クロライド系モノマー、特開平８－１１３７６３号公報、特開平９－２５４３３号公報にメルカプトチアジアゾール系モノマー、特開平８－２６９０４３号公報、特開平１０－９５７８９号公報にチイラン系モノマー、特開平１０－１４０９号公報、特開平１０－１４７３号公報、特開平１１－５００１２号公報、特開平１１－９２４６１にチオウラシル系モノマー、特開平１１－１７２２０４号公報にチオフェンカルボン酸エステル系モノマー、特開昭６２－２９２７７４号公報、特開平９－６７５４６号公報にトリアジンジチオン系モノマーが開示されている。これらのイオウ基含有重合性単量体およびその塩を配合した金属表面処理剤、接着剤、レジンセメント等の接着性組成物についても種々の検討がなされている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５７】
これらのフィラーは、本発明の接着性組成物の機械的強度、操作性、塗布性、流動性の調整のため、必要に応じてシランカップリング剤等の公知の表面処理剤で予め表面処理してから用いてもよい。かかる表面処理剤としては、例えば、ビニルトリメトキシシラン、ビニルトリエトキシシラン、ビニルトリクロロシラン、ビニルトリ（β－メトキシエトキシ

）シラン、３－メタクリロイルオキシプロピルトリメトキシシラン、γ－グリシドキシプロピルトリメトキシシラン、γ－メルカプトプロピルトリメトキシシラン、γ－アミノプロピルトリエトキシシラン等が挙げられる。これらのフィラーは、１種類または複数種類の組み合わせで配合される。これらのフィラーの配合量は、接着性組成物の適用用途によって異なる。例えば、充填用の接着剤として使用する場合には、組成物全体に対して、好ましくは４０重量％以下、より好ましくは３０重量％以下、更に好ましくは２０重量％以下の範囲で配合される。また、合着材（セメントともいう）の場合には、好ましくは３０～９０重量％の範囲、より好ましくは４０～８５重量％の範囲、更に好ましくは５０～８０重量％の範囲で配合される。合着材に配合するフィラーとしては、被膜厚さの観点から平均粒子径が３０μｍ以下のフィラーが望ましく、更にはＸ線不透過性のフィラーが好ましい。